



ANNUAL
REPORT 2012

www.cfc.or.jp

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

本部事務局 兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階
TEL : 0798(63)4442 FAX : 0798(63)5551

仙台事務局 宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-32 オーロラビル1106
TEL : 022(265)3461 FAX : 022(265)3471

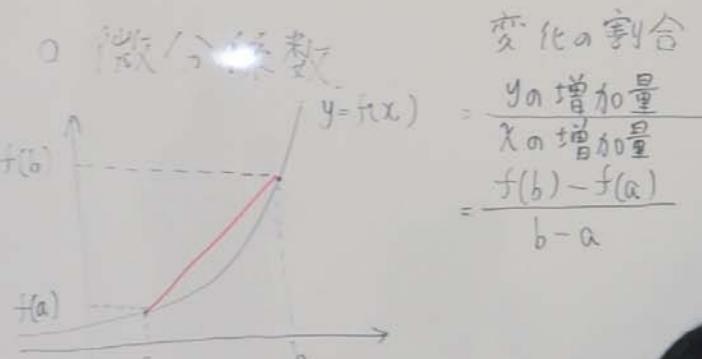
東京事務局 東京都江東区亀戸6-54-5 小川ビル2階(NPO法人夢職人内)
TEL/FAX : 03-5935-7302

E-mail : info@cfc.or.jp [CFC](#) [検索](#)

すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を

すべての子どもに
平等な教育の機会が与えられ
それぞれが自分の夢に向かって
進んでいける社会を目指しています

微分、積分



子どもたちにとって塾・予備校・習い事などの学校外教育は、多様な人間関係を育み、選択肢の幅を広げ、将来の自立に寄与する、成長に不可欠な機会です。しかし現在の日本では、義務教育により公教育の機会が保障されている一方で、学校外教育の機会は家庭の経済状況に左右されます。つまり、日本には家庭の経済的な理由で学校外の教育を十分に受けることができない子どもたちがいるのです。自分の生まれた環境によって教育の機会が失われ、将来をあきらめなければならない……そのような状態はあってはなりません。私たち「チャンス・フォー・チルドレン(CFC)」は、子どもたちの学校外教育の機会を保障することで、すべての子どもたちが自分の夢や目標に向かって進むことができる社会を実現したいと考えています。

「子どもの貧困」は海外だけの問題ではありません

日本国内には、経済的な理由で学校外教育を十分に受けることができない子どもたちがいます。生まれた環境によって、子どもたちの将来が左右されることってあります。そのために私たちCFCは、経済的に苦しい状況にある子どもたちの学校外教育の機会を保障し、将来の自立を支えていきたいと考えています。

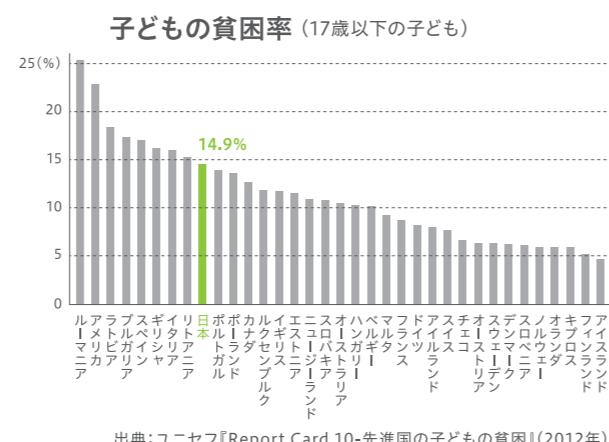
日本では、約7人に1人の子どもが貧困状態にあります

ユニセフ(国際連合児童基金)が2012年にまとめた報告書によると、日本の子ども(17歳以下)の相対的貧困率は14.9%でした。これは、先進国35ヶ国中9番目に高い数字であり、日本の子どもの約7人に1人が貧困状態にあることを示しています。

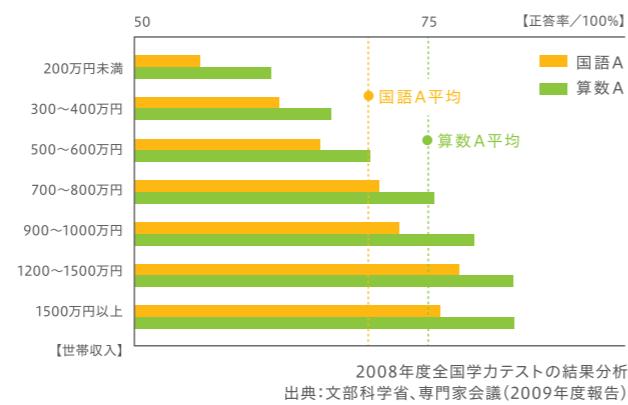
※子どもの貧困とは等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調節した所得)の中央値の半分に満たない17歳以下の子どものことをいう。

経済格差が子どもの学力格差を生みます

2008年度の全国学力テストの結果を分析すると、世帯収入の多寡で正答率に約20%の開きが生じていました。世帯収入の低い家庭や、子どもにかけられる学校外教育費の少ない家庭ほど、子どもの正答率が低いことがわかります。家庭の経済格差が学力格差を生んでいます。

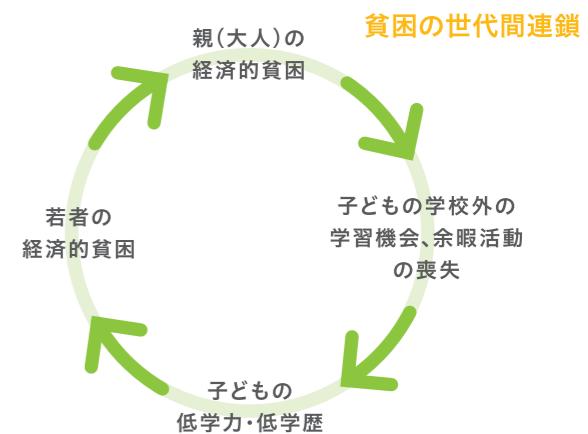


世帯収入と子どもの学力(対象/小学6年生)



貧困の世代間連鎖が生まれています

親の経済的貧困は、子どもから学習の機会やさまざまな体験活動の機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかつたことで低学力・低学歴になってしまった子どもは、大きくなつたときに所得の低い職業につかざるを得なくなり、更には彼らの下の世代にも貧困が連鎖してしまうのです。



東日本大震災で、教育機会を奪われてしまった子どもたちがいます

2011年3月に発生した東日本大震災による経済的なダメージで、多くの子どもたちが被災前まで通っていた塾や習い事などを辞めざるを得ない状況に陥っています。CFCは2011年6月より仙台に事務所を構え、被災した子どもたちの支援活動を開始。被災という不可抗力の中でも子どもたちに学校外教育の機会を保障することこそが、長期的な被災地復興にもつながっていくと考えています。



塾・習い事などで利用できる 学校外教育バウチャーを 提供しています

CFCは、経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちに対して、学校外教育サービスに利用できるバウチャー(クーポン)を提供しています。子どもたちは、バウチャーを利用して、塾・習い事などに通います。現金給付ではなくバウチャーを提供することで、子どもたちに確実に教育機会を保障することができるのであります。

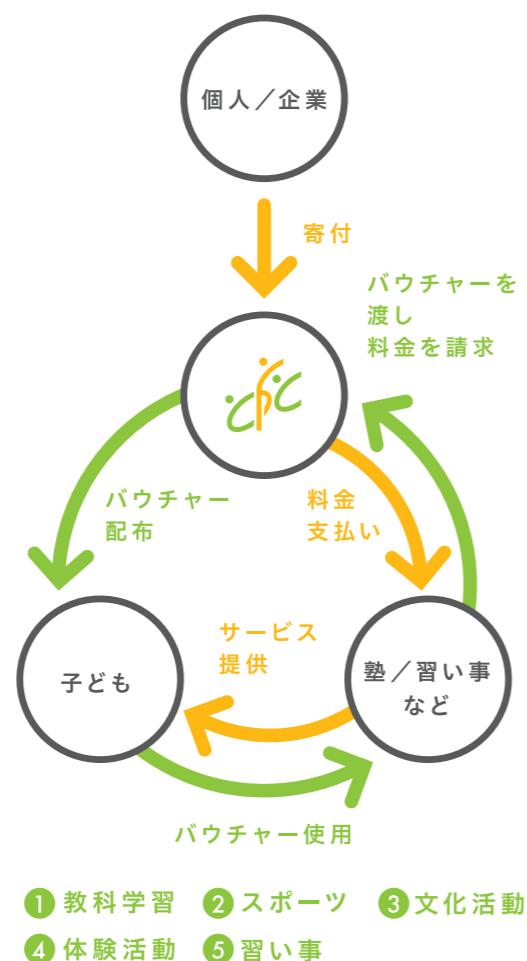


Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

▶▶ Point 1

バウチャーの使途は 教育サービスに限定しています

経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちへ、学校外教育サービスに利用できるバウチャーを提供しています。現金給付ではなく、バウチャーを支給することで、教育以外の用途に使用されることはなく、確実に教育機会を提供することにつながります。また、バウチャーには有効期限を設けることができるため、貯蓄することができず、その大半が教育費用にまわされることになります。



▶▶ Point 2

バウチャーの利用先は 子どもたちが自由に「選択」できます

バウチャーが利用できるのは学習塾や予備校だけではありません。教科学習・スポーツ・文化活動・体験活動・習い事などの幅広いサービスに利用することができます。また、バウチャー利用先は子どもたちからのリクエストに応じて随時追加する仕組みのため、一人ひとりのニーズに合わせた支援を可能にします。

▶▶ Point 3

大学生ボランティアが 子どもたちを継続的に サポートします

大学生ボランティアが月に一度、電話や面談を通して学習や進路の相談にのる「ブラザー・シスター制度」を導入しています。バウチャーの利用に関するアドバイスを行うことで、バウチャーの有効利用を促します。また、子どもたちと年齢の近いお兄さん・お姉さんのような立場で子どもに寄り添いながら、その成長をサポートします。

バウチャーの仕組みは被災地の
教育事業者の自立を支援し、雇用を促進

塾や習い事教室などの教育事業者が子どもたちから受け取ったバウチャーは、CFCで換金できる仕組みになっています。つまり、被災地でバウチャーが使用された場合、被災地の教育事業者の収入源にもなるのです。バウチャーによる支援は、子どもに無償の教育支援をしながら、被災地の教育事業者の自立を支援し、雇用を促進できる有効な仕組みです。

一人当たり年間25万円のバウチャーを提供しています

学校外教育サービスの利用に限定したバウチャー(クーポン)です。CFCでは、市民・企業などの寄付金をもとに、子ども一人当たり年間25万円のバウチャーを提供しています。このバウチャー額は、文部科学省が調査した小学生～高校生の年間の学校外教育費の平均額をもとに算出したものです。

※西日本のプロジェクトでは、中学3年生・高校3年生に50万円分のバウチャーを提供します。



西日本での取り組み

貧困の世代間連鎖を 断ち切るために

CFC西日本では、生活保護受給世帯の子どもを対象にバウチャーを提供。学校外教育機会を保障することで親の収入格差から生まれる教育格差を是正するとともに、貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目指しています。

CFC西日本概要(2012年度)

対象者	生活保護受給世帯の小学生～高校生 (兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県のみ)
給付額／人	25万円(中3、高3は50万円)
バウチャー利用期間	2012年4月1日～2013年3月31日
バウチャー利用者数	4名(高1:2名、高3:2名)
バウチャー取扱事業者数	10事業者(2013年5月31日時点)

審査方法

【第1次審査】

書類審査 ▶ エントリーシートを提出

審査基準 ▶ 自己向上／学習意欲／進学・就職意欲(中高生のみ)

【第2次審査】

面接審査 ▶ CFC理事やCFCアドバイザーによる面接

審査基準 ▶ 自己向上／学習意欲／日常生活／進学・就職意欲(中高生のみ)

2012年度のスケジュール

2012年 4月1日	バウチャー利用開始(有効期限:2013年3月31日)
10月27日～12月28日	街頭募金活動実施(計5回)
2013年 2月8日	バウチャー継続利用者決定
2月12日	バウチャー新規利用者募集開始
3月8日	バウチャー新規利用者募集締切
3月9日～13日	応募者第1次選考(書類審査)実施
3月14日	応募者第1次選考通過者決定
3月23日	応募者最終選考(面接審査)実施
3月28日	バウチャー提供(2013年4月1日から利用開始)



「医師になって、
多くの人を助けたい」

兵庫県西宮市／高校2年生男子

僕が将来の夢について考えはじめたのは、小学2年の時です。持病の喘息発作がひどくなり、夜間に救急車で病院へ搬送された経験がきっかけになりました。ほとんど意識はありませんでしたが、救急隊員や医師の懸命な処置、加えて母が看病をしてくれたことが印象に残りました。こうした発作を繰り返すうちに「医療ってすごい、僕もこのような人たちのようになりたい」と思い、医師になりたいと思うようになりました。今年からCFCバウチャーをいただけるようになったので、将来の夢のために有効に使いたいと思います。これまで苦手な英語や国語を独学で克服しようと時間を割いてきましたが、あまり良い結果が出ませんでした。これからはバウチャーを使って計画的に数多くの教科を学び、これまで以上に勉強に専念していきたいです。そして将来医師になるという夢を叶えるためにしっかり努力したいと考えています。

先日、一日医師体験のイベントに参加し、医師が患者さんのために必死で働く姿を見て、医師になりたいという想いがより一層強まりました。今の具体的な目標は、心臓血管外科または救急科で働き、その後国境なき医師団に入ることです。僕は自分自身の病気により命を助けてもらった過去があります。だから次は自分自身が多くの人を助ける医師になりたいです。

東日本での取り組み

子どもたちの未来と 被災地復興のために

CFC東日本の活動は、東日本大震災で被災した子どもたちの支援を行うため、2011年6月にスタートしました。被災という不可抗力の中でも、子どもたちに確実に学校外教育の機会を保障すると共に、長期的な被災地の復興にもつなげたいと考えています。

CFC東日本概要(2012年度)

対象者	東日本大震災で被災した小学生～高校生 (全国に避難している児童生徒も含む)
給付額/人	25万円
バウチャー利用期間	2011年12月1日*～2013年3月31日 ※2011年度からの継続
バウチャー利用者数	176名* (小学生:29名、中学生:50名、高校生:97名) ※バウチャー給付を行った200名のうち、24名の 高校3年生(当時)が2012年3月に高校を卒業したため
バウチャー取扱事業者数	64事業者(2013年3月31日時点)

審査方法

【継続利用審査】

- 書類審査 ▶ エントリーシート、公的所得証明書を提出
- 審査基準 ▶ 世帯収入・所得状況
2011年度・2012年度のバウチャー利用状況

【新規利用審査】

- 書類審査 ▶ エントリーシート、公的所得証明書、罹災証明書等の
被災を証明する公的書類を提出
- 審査基準 ▶ 被災状況(住家被害、人的被害、原発被害等)
学年／学校外教育サービスの利用状況／世帯収入・所得状況

2012年度のスケジュール

2012年 5月5日	バウチャー提供 バウチャー贈呈式開催(2011年度第2次提供)
5月7日	バウチャー利用開始 (2011年度第2次提供／有効期限2013年3月31日)
8月8日～12月24日	街頭募金活動実施(計6回)
2013年 1月30日～3月15日	バウチャー継続利用者審査実施
3月15日	バウチャー継続利用者決定
3月20日	バウチャー継続提供／バウチャー贈呈式開催
4月1日	バウチャー継続利用開始
4月11日	バウチャー新規利用者募集開始
5月18日	バウチャー新規利用者募集締切
5月21日～31日	応募者選考(書類審査)実施
6月1日	バウチャー新規利用者決定(2013年6月10日から利用開始)



「人々の喜びにつながる
モノづくりを目指して」

宮城県石巻市／高校2年生男子

東日本大震災の津波で私の家は流されてしまいました。今までとは環境も一変し、何度も震災を恨み、また悔しくも感じてきました。こうした思いは私だけではなく、被災した多くの人々が感じていたものだと思います。そして今なお、多くの方々が前向きな気持ちになれないままいるのではないかと感じています。

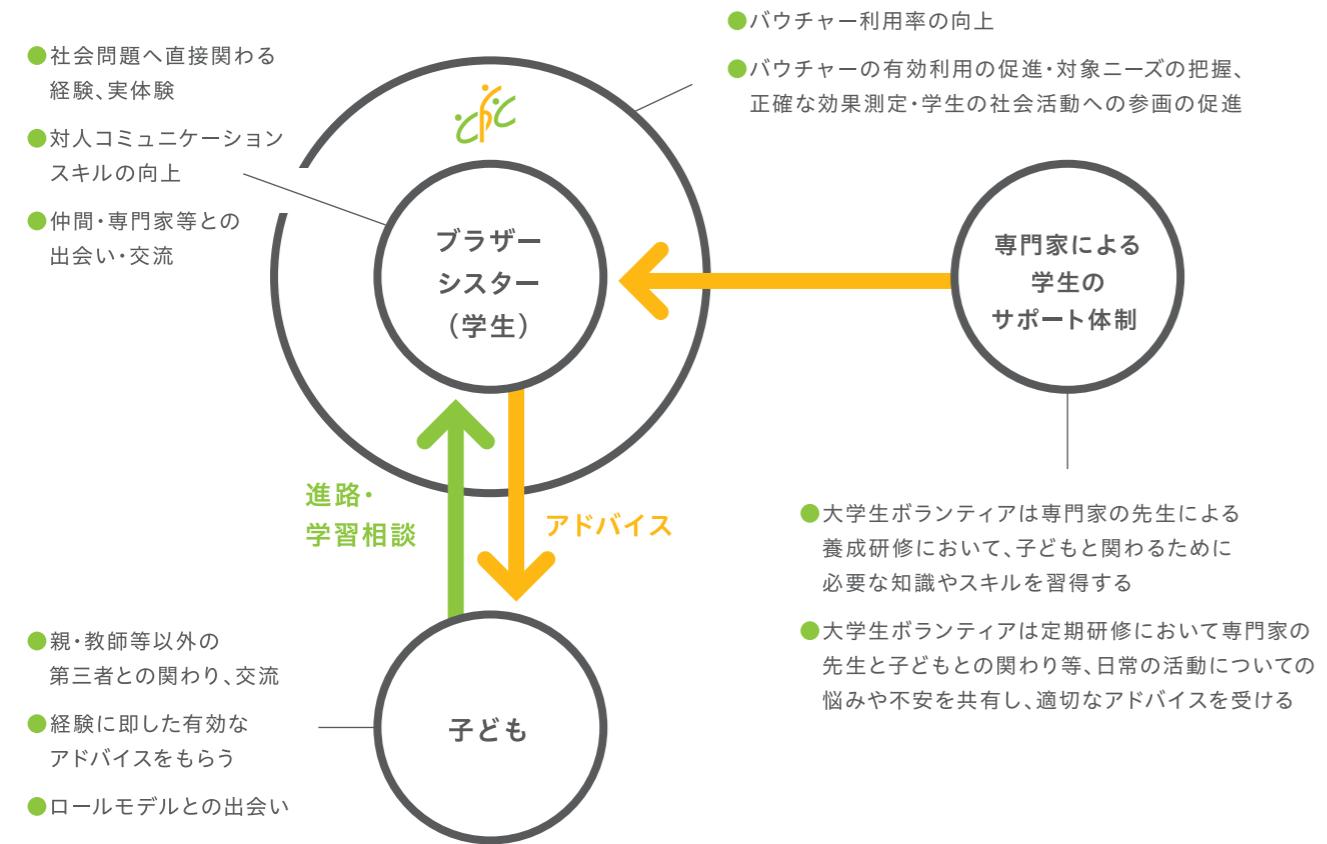
私の夢は、アイディア商品の企画を行う仕事に従事することです。高齢者や身体障害者の方の自立支援につながるようなモノを作り、それを使って自分で何かが出来た時の喜びや達成感を自らの目や手で味わってもらいたいのです。また、震災後のようにつらい状況にいる人たちが、ほんの一瞬でも気持ちがまぎれ、楽しみながら手先や思考力を使うようなモノを作ることができたらと考えています。

こうした夢を叶えるために、バウチャーを使わせていただいている。昨年は志望の高校へ進学するための講習会参加などに使わせていただき、無事志望校に合格することができました。今後はさらなる夢の実現に向けて大学進学のためにバウチャーを利用したいと考えています。進学に向けての勉強はもちろん、視野を広げるために多くの人と交流したいと思っています。

ブラザー・シスター制度

大学生ボランティアが月に一度の電話や面談を通して
バウチャー利用に関するアドバイスや進路・学習相談を行います

大学生ボランティア(ブラザー・シスター)は、専門家による対人援助、グリーフケア、進路・学習などに関する研修を受けています。また、2ヶ月に一度専門家からの助言等をもらう定期研修に参加し、子どもたちを支えるための知識やスキルを学んでいます。



ブラザー・シスターの声

私が担当しているのは現在高校2年生の男の子。震災を経験して「医者になりたい」という夢を持っています。私が面談ができる時間も、残り1年を切りました。とにかく耳を傾ける「聴き役」としての役割を念頭に、彼の夢を応援し続けたいです。

松村 裕治

東北大学法学部法学科4年生



私の担当しているバウチャー利用者は小学生。未来に希望を抱き、今を生きている子どもたちにさらに元気を与えるように同じ目線で考え楽しむ。そんな関わりを続けていきたいと思っています。

相澤 汐莉

東北福祉大学
総合福祉・福祉心理学科3年生



「子どもたちから多くを学びました」

松本 千加子

尚絅学院大学／健康栄養学科4年生

震災後に何か役に立ちたいと思い、ボランティアのマッチングセンターに行きました。けれども当初必要とされていたのは力仕事が多く、あまり関わることができませんでした。そんなもやもやした気持ちを抱えていたときにCFCのボランティア養成研修会のチラシを見たのです。「すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。」という言葉に魅かれ、参加したいと思いました。

ブラザー・シスターの活動は、はじめは顔の見えない関係にとまどいました。けれども回を重ねるごとに少しずつ会話が続くようになって、子どもたちとの会話が楽しみになっていきました。月1回の電話相談を通して、自分が何で役に立てたかはわかりませんが、私自身は彼ら彼女らから学ぶことはとても多かったと感じています。一つの目標に向かって真っすぐに進む姿に、私も負けていられない力をもらいました。私が担当していた子どもは、将来デザイン関係の仕事を就くという目標のために、美術系の大学進学を目指していました。バウチャーを使って画塾と予備校に通って一生懸命勉強していたので、彼女が志望校に受かったと聞いた時は嬉しい気持ちでいっぱいになりました。子どもがひとつの目標を達成した瞬間に関わられたことに心から感謝しています。

2012年度のスケジュール

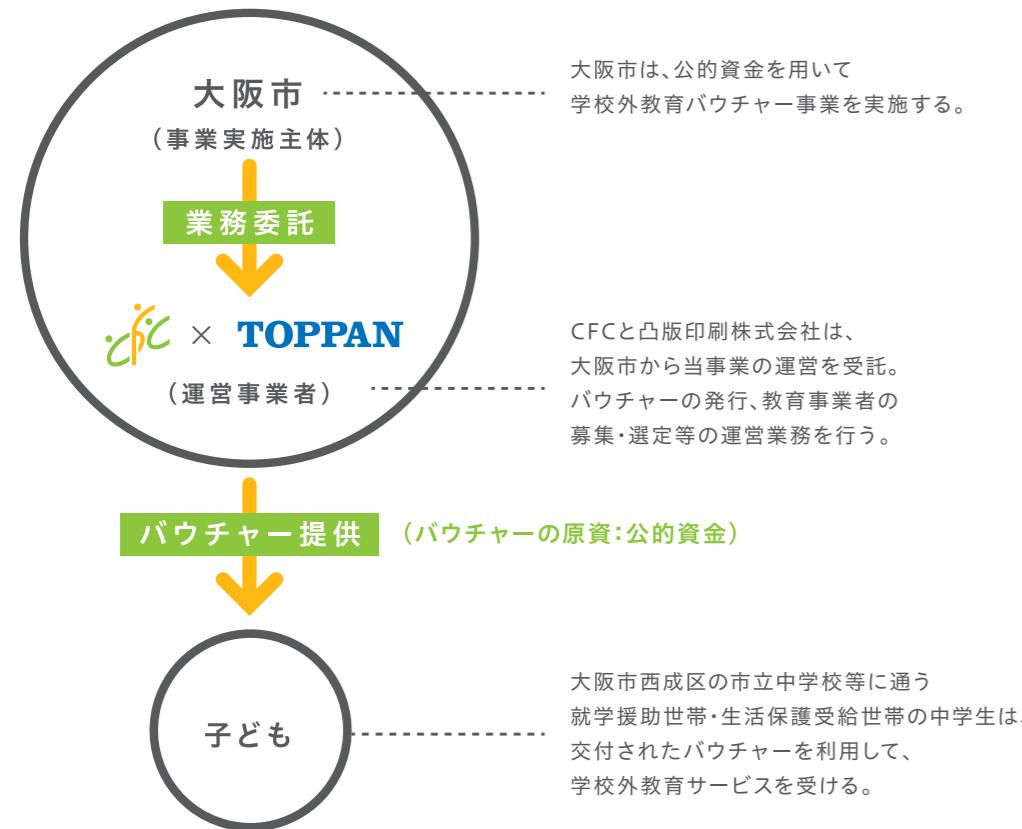
2012年 4月1日	ブラザー・シスター初回面談開始 (CFC西日本・東日本／以後、毎月一回実施)
4月22・25日	大学生ボランティア定期研修実施 (CFC東日本／以後、隔月開催)
4月24日	大学生ボランティア定期研修実施 (CFC西日本／以後、隔月開催)
5月26・27日	大学生ボランティア養成研修①実施 (CFC東日本／21名養成)
10月6・7日	大学生ボランティア養成研修②実施 (CFC東日本／8名養成)
2013年 2月23・24日	大学生ボランティアスキルアップ研修実施 (CFC東日本)
3月31日	大学生ボランティア面談終了 (CFC西日本・東日本)



自治体との協働

CFCは自治体との協働により
各地域の貧困世帯の子どもたちを支援します

CFCは、子どもの貧困問題を解決するため、
各地域にて自治体と協働して学校外教育バウチャー事業を行っていきます。
2012年度はその初めての試みとして、大阪市と協働して
大阪市塾代助成事業(学校外教育バウチャー事業)の運営を凸版印刷株式会社と共に実施しました。
私たちは、自治体が学校外教育バウチャー事業に公的資金を投入し、教育政策として実施することで、
より多くの貧困世帯の子どもたちに十分な教育機会を提供できると考えています。



2012年度大阪市塾代助成事業(試行実施)の概要

対象者	就学援助世帯、生活保護世帯
実施場所	大阪市西成区
交付額／人	月額1万円×7ヶ月分(2012年9月～2013年3月)
交付対象者数	約1,000名
事業実施主体	大阪市
運営事業者	凸版印刷株式会社 一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン



全国で初めて大阪市が 学校外教育バウチャー事業を 政策導入

大阪市が2012年度の教育政策として学校外教育バウチャー事業を実施しました。これは、全国の自治体としては初めての試みで、「子どもの貧困問題」解決に向けた先駆的な取り組みとして注目される政策です。2010年度からCFCが実施してきた事業との違いは、バウチャーの原資に公的資金が用いられている点です。地域の子どもたちを地域の大人たちが支えていく。そんな想いのつまった素晴らしい政策であると感じます。

大阪市は2012年度、西成区で本事業を試行実施し、2013年度からは大阪市全域(24区)に拡大して実施していく予定です。CFCは、このような自治体が主体となる取り組みをサポートすることで、子どもの貧困問題の早期解決を目指していきます。



2012年度のスケジュール

2012年 7月1日	凸版印刷株式会社とCFCの共同事業体が運営業務を受託
	事業運営を開始
9月1日	バウチャー利用開始
2013年 2月21日	大阪市が「塾代助成事業」を大阪市全域に展開する方針を発表

「塾に通って 志望校に合格」

宮城県石巻市／高校1年生女子

東日本大震災はたくさんの命を奪い、ふるさとも跡形もなくなってしまいました。そんな時にいろいろな県からボランティアの方が来てください、とても助けられました。その姿を見て、私も将来人の役に立つ仕事につけたらと思うようになりました。

昨年の高校受験のときは、親孝行のために高校に進学したいと思っていましたが、学校でも勉強についていけなくなり、まわりの友達も塾に通い始め、焦りました。けれども塾に通うにはお金がかかると聞き、親孝行以前に迷惑をかけてしまうのではないかと悩みました。そんなときにバウチャーを利用して塾に行けることになり、少しづつ成績もあがってきました。無事に志望校に合格できたときは嬉しかったです。

高校生になり、今はホームステイに行きたいと思っています。このホームステイの企画は、災害にあった宮城県などの高校生を対象としているものです。またバウチャーをいただけたら、ホームステイの準備のために英会話教室に通いたいと思っています。



活動実績

180名以上の子どもたちが夢を実現するために
バウチャーを利用して様々な活動に取り組みました

西日本

2012年度バウチャー利用者4名

(継続1名、新規3名)※応募者9名

▶ 学年別

高校3年生:2名 / 高校1年生:2名

▶ 地域別

兵庫県:3名 / 大阪府:1名

▶ バウチャー利用率 84.6%

※バウチャー利用率 =
利用されたバウチャー金額/バウチャー提供額

2013年度バウチャー利用決定者5名

(継続2名、新規3名)※応募者5名

▶ 学年別

高校2年生:4名 / 高校3年生:1名

▶ 地域別

兵庫県:5名

※2012年度中に集まった資金を原資としています。

東日本

2012年度バウチャー利用者176名

(応募者1,701名)※2011年度募集時

▶ 学年別

小学生:29名 / 中学生:50名 / 高校生:97名

▶ 地域別

岩手県:29名 / 宮城県:114名 / 福島県:29名
栃木県:1名 / 千葉県:1名 / 兵庫県:2名

▶ 住家被害

全壊・原発避難:164名 / 大規模半壊:6名
半壊:5名 / 一部破損:1名

▶ 人的被害

父死亡・行方不明:4名 / 母死亡・行方不明:7名
その他親族死亡・行方不明:25名

▶ 親の失業

父失業:68名 / 母失業:45名

▶ バウチャー利用率 78.8%

※バウチャー利用率 =
利用されたバウチャー金額/バウチャー提供額

2013年度バウチャー利用決定者189名

(継続92名、新規97名)※応募者1,200名

▶ 学年別

小学生:26名 / 中学生:77名 / 高校生:86名

▶ 地域別

岩手県:27名 / 宮城県:139名 / 福島県:20名
栃木県:1名 / 兵庫県:2名

▶ 住家被害

全壊・原発避難:170名 / 大規模半壊:13名
半壊:4名 / その他:2名

▶ 人的被害

父死亡・行方不明:20名 / 母死亡・行方不明:7名
その他親族死亡・行方不明:18名

※2012年度中に集まった資金を原資としています。

進学実績

CFC東日本の中学3年生の100%が高校に進学(41名/41名)

※高校進学率全国平均:98.3% (出典)文部科学省「平成24年度学校基本調査」

CFC西日本・東日本の高校3年生の82.3%が大学等に進学(28名/34名)

※大学・短大進学率(現役)全国平均: 53.6% (出典)文部科学省「平成24年度学校基本調査」

CFC東日本の中学3年生・高校3年生の91.7%が希望する進路に進んだ(67名/73名)

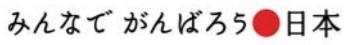
ご支援いただいた皆さん

協賛企業・団体

 株式会社ECC ジュニア事業部様	 株式会社栄光様	Sponsored by  SAPジャパン株式会社様
 MetLife Alico メットライフ アリコ MDRTメットライフアリコ会様	 特定非営利活動法人 北播磨市民活動支援センター様	 TRANSWORD CO., LTD. 株式会社トランスクワード様
 POKEMON with YOU - ポケモンはいつも キミと いっしょ - POKEMON with YOU様	 三菱地所 三菱地所株式会社様	 社団法人倫理研究所様

●IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 被災者支援情報センター様 ●芦屋キワニスクラブ様 ●MB+BGM 東日本大震災ランブレッタ・レースツアーアイアンプロジェクト様
 ●奥州魚河岸酒屋 天海のろばた様 ●株式会社大川印刷様 ●関西学院 中学部 生徒会様 ●さがみ進学教室様 ●熊谷組職員会様 ●公式文書とまとびあ関・もみじ山様
 ●コクヨ労働組合様 ●一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン様 ●笑家様 ●高田屋 仙台一番町店様 ●株式会社Tポイント・ジャパン様
 ●東北ベストスタディ株式会社様 ●凸版印刷株式会社 東日本事業本部様 ●凸版印刷株式会社 西日本事業本部様 ●虎ノ巣事務局様 ●日本コスプレ委員会様
 ●野村不動産グループ様 ●株式会社パブリックオンサイン様 ●パブリックリソースセンター様 ●株式会社バリューブックス様 ●ピュアスポーツ福島スイミング様
 ●ベスト学院株式会社様 ●有限会社マダム タカコ カンパニー様 ●株式会社三保原屋LOFT店 ●株式会社リブドゥコボレーション様

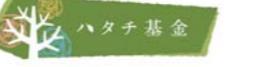
助成団体

 公益財団法人東日本大震災復興支援財団様	 全日本社会貢献団体機構 全日本社会貢献団体機構様
---	---

CFCサポート会員・寄付者(個人)

●青木 正美様 ●青木 譲様 ●浅野 玄様 ●阿部 雅夫様 ●阿部 裕二様 ●阿部 有紀子様 ●雨宮 育子様 ●荒井 隆様 ●荒木 奈津子様 ●有本 欣永様
 ●池上 貴樹様 ●池上 貴之様 ●伊佐早 順子様 ●石河 幸治様 ●石川 聰子様 ●市位 葉子様 ●稻井 陽一様 ●今井 純子様 ●今井 功子様 ●今井 康雄様
 ●入江 英子様 ●岩本 恒典様 ●宇崎 美佐都様 ●梅田 奈里子様 ●梅原 美野様 ●江刺 亨様 ●大高 健久様 ●大平 仁士様 ●大藤 泰生様 ●大山 照枝様
 ●小笠 原洋一様 ●岡田 芳明様 ●沖田 亜美様 ●奥野 真人様 ●奥野 正春様 ●尾上 理香様 ●小野 雅裕様 ●河内 英樹様 ●川上 泰弘様 ●川崎 全司様
 ●川瀬 壮太郎様 ●川中 大輔様 ●キタオ ミカ様 ●北上 丈生様 ●北村 政記様 ●北村 類生様 ●経堂 隆大様 ●黒瀬 晴世様 ●黒田 敦様 ●河野 恵美様
 ●小浦 依子様 ●古賀 勇希様 ●小張 貴史様 ●駒田 久様 ●紺野 哲成様 ●雜賀 キヨエ様 ●雜賀 憲太様 ●雜賀 茂雄様 ●雜賀 容子様 ●斎藤 純子様
 ●サカイトオル様 ●桜井 政成様 ●佐々木 耕志様 ●貞本 幸男様 ●佐藤 健介様 ●佐野 康也様 ●柴垣 謙様 ●下吹越 陽也様
 ●白川 由利様 ●鈴木 淳子様 ●鈴木 平様 ●鈴木 紀夫様 ●鈴木 由利佳様 ●瀬口 高矢様 ●世良田 一輝様 ●爾未枝様 ●高内 正恵様 ●高澤 邦彦様
 ●高野 なつき様 ●高橋 捷児様 ●武井 敏史様 ●武知 建太様 ●忠澤 宏明様 ●田中 雅也様 ●田辺 大様 ●谷本 悅子様 ●樽川 裕紀様 ●檀上 誠様
 ●丹野 栄様 ●塙本 沙弥香様 ●辻 紗様 ●土屋 杏奈様 ●土屋 真平様 ●出村 和子様 ●寺井 種伯様 ●東垣 芳昌様 ●豊田 新悟様 ●豊田 みゆき様
 ●直江 政明様 ●永井 周一様 ●長尾 文雄様 ●中田 良平様 ●中塙 久美子様 ●中林 繁治様 ●中原 一雄様 ●中村 可奈子様 ●中村 雅英様 ●長屋 貴彦様
 ●並河 博一様 ●西貝 昇様 ●八木 富久子様 ●花野 輝代様 ●濱 佳代子様 ●濱村 直之様 ●原 涼佳様 ●原田 久光様 ●東口 千津子様 ●平田 宗一郎様
 ●廣川 智三様 ●福島 昌子様 ●藤井 雄規様 ●藤岡 裕子様 ●藤澤 司朗様 ●藤島 省太様 ●藤島 マリ様 ●藤田 明美様 ●藤田 文彦様 ●藤波 大吾様
 ●古草 靖久様 ●文箭 安雄様 ●町田 佐織様 ●松田 康之様 ●松本 幸寿様 ●松本 学様 ●松山 哲也様 ●三宅 浩史様 ●宮崎 亮太様 ●宮沢 一郎様
 ●武藤 千鶴子様 ●村上 一樹様 ●村上 由貴子様 ●村上 嘉洋様 ●村田 修様 ●村田 和隆様 ●村田 智和様 ●森 亞都子様 ●森 正義様 ●守谷 市子様
 ●森山 隆一様 ●森 亮様 ●八木 良三様 ●保川 紫織様 ●安武 翔様 ●柳澤 裕様 ●山根 尚様 ●山本 晃史様 ●山本 恵津子様 ●山本 智也様
 ●遊佐 謙太郎様 ●横田 悅子様 ●横山 国宏様 ●吉川 由紀様 ●吉田 忍様 ●吉田 美代子様 ●吉村 松二様 ●脇阪 大輔様 ●渡邊 利之様

パートナー

 特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー様	 ハタチ基金 ハタチ基金(基金設置団体:公益財団法人日本財団様)
--	--

CFCバウチャー取扱事業者紹介

東日本

●株式会社イーオン・イースト・ジャパン様 ●株式会社ECC ジュニア事業部様 ●石卷特進スクール様 ●伊東義塾様 ●株式会社栄光様
 ●英語センターT.Kスタジオ様 ●英智学館 大船渡校様 ●英智学館 気仙沼校様 ●特定非営利活動法人NPOカカリバ様 ●有限会社エフ企画様
 ●株式会社エミール様 ●株式会社エムシーエス生涯学習センター様 ●大沼学院様 ●小山紀子音楽教室様 ●学習教室クラス様 ●学習塾ペガサス亘理教室様
 ●有限会社家庭教育情報センター様 ●株式会社KATEKYOグループ様 ●関塾 岩沼駅前進学教室様 ●株式会社公文教育研究会様 ●くりこま高原自然学校様
 ●K学習塾様 ●啓明ゼミナール様 ●KSK松戸音楽教室様 ●孔明塾様 ●サカモト学習塾様 ●佐藤英会話・五學塾様 ●さとう学習会様 ●C3進学アカデミー様
 ●株式会社シェーンコーポレーション様 ●jet(全日本エレクトーン指導者協会 仙台エリア)菅野紀子音楽教室様 ●株式会社滋慶様 ●株式会社志文 東部自動車学校様
 ●株式会社進学会様 ●有限会社新教育ゼミナール様 ●株式会社スクールマイズ様 ●清野塾様 ●セコー学院様 ●株式会社セレクティー様
 ●総合学習塾 マインズ宮古校様 ●第一進学塾様 ●東北ベストスタディ株式会社様 ●株式会社トライアルグループ 家庭教師のトライ 東北本部様 ●中島工房ミューズ様
 ●日本習字旭館支部教室様 ●パセオドライビングカレッジ様 ●番場ゼミナール様 ●ピュアスポーツ福島スイミング様 ●株式会社福島県東部自動車教習所様
 ●有限会社福島自動車学校様 ●株式会社福助屋商店(サルコヤ)様 ●ベスト学院株式会社様 ●株式会社ベネッセコボレーション様 ●有限会社マスターマイズ様
 ●まなびの森様 ●みなみ英語塾様 ●むらかみミュージックスクール様 ●株式会社明光ネットワークジャパン様 ●ヤナセゼミ様 ●株式会社ヨシヤ 松戸東自動車学校様
 ●四谷学院 仙台校様 ●株式会社リフレスポート様 ●株式会社ワオ・コーポレーション様 ●和田ピアノ教室様 (64事業者 2013年3月31日時点)

西日本

●株式会社アップ様 ●株式会社ECC様 ●ECCジュニア北野教室様 ●NPO法人English Smile様 ●きがみ進学教室様 ●株式会社Z会様
 ●堂本ピアノ・エレクトーン音楽教室様 ●株式会社日本公文教育研究会様 ●株式会社ヒューマレッジ様 ●予備校 創学ゼミナール様 (10事業者 2013年5月31日時点)

受賞歴・メディア掲載情報

受賞

国際ソロプロミスト神戸東クローバー賞
日経ソーシャルイニシアチブ大賞 東北復興部門賞 ファイナリスト選出

メディア掲載

ラジオ	2012年 4月19日	エフエム仙台	Crescendo
	2013年 2月1日	KBS京都 ラジオ	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ
	2012年 5月3日	日本経済新聞	CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事
	5月6日	毎日新聞	CFC東日本バウチャー贈呈式紹介記事
		河北新報	CFC東日本バウチャー贈呈式紹介記事
		読売新聞	CFC東日本バウチャー贈呈式紹介記事
	5月22日	読売新聞	CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事 大阪市塾代助成事業紹介記事
	6月10日	神戸新聞	CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事
	7月3日	毎日新聞	CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事 大阪市塾代助成事業紹介記事
	11月3日	読売新聞	CFC東日本バウチャー利用者紹介記事
	11月28日	朝日小学生新聞	CFC学校外教育バウチャー事業紹介記事
	2013年 1月1日	SANKEI EXPRESS	代表理事雑賀雄太のインタビュー記事
	1月15日	朝日新聞	代表理事今井悠介のインタビュー記事
	2月24日	毎日新聞	CFC西日本バウチャー利用者募集記事
	3月22日	河北新報	CFC東日本バウチャー贈呈式紹介記事
	3月29日	朝日新聞	CFC東日本バウチャー贈呈式紹介記事
新聞			
雑誌	2012年 12月3日	週刊 教育資料	代表理事今井悠介のインタビュー記事

CFCアドバイザー等紹介

アドバイザー・スーパーバイザー :CFCの運営全般に関してアドバイス

明石 要一様
千葉大学
教育学部教授

川北 秀人様
IIHOE[人と組織と地球の
ための国際研究所]代表者

川島 恵美様
関西学院大学
人間福祉学部准教授

高橋 聰美様
つくば国際大学医療保健学部
看護学科精神看護学 教授

武井 敦史様
静岡大学大学院准教授

田村 太郎様
(一財)ダイバーシティ研究所
代表理事

津久井 進様
弁護士法人芦屋西宮市民
法律事務所・代表社員

出村 和子様
一般社団法人
日本いのちの電話連盟 理事

苦野 一徳様
日本学术振興会
特別研究員(PD)

長尾 文雄様
特定非営利活動法人ブレーン
ヒューマニティー理事

能島 裕介様
特定非営利活動法人ブレーン
ヒューマニティー理事長

半羽 利美佳様
武庫川女子大学文学部
心理・社会福祉学科准教授

トレーナー:大学生ボランティア育成のサポート

阿部 裕二様
東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科教授
佐藤 利憲様
仙台青葉学院短期大学看護学科講師

松浦 智博様
株式会社デュナミス取締役・キャリア教育コーディネーター
松本 幸子様
宮城県中央児童相談所元職員・社会福祉士

CFCアドバイザー会議

CFCアドバイザー、協力企業・団体、外部評価チームの皆さまからは継続的なご支援、ご助言をいただくとともに、「アドバイザー会議」を開催し、CFCの2020年ビジョンや今後取り組むべき課題について様々な視点から貴重なアドバイスをいただきました。



アドバイザー会議概要

日程 2013年2月3日(日)15:00~18:00

会場 日本財団ビル 第8会議室

第一部 CFCの活動報告(代表理事より)、CFC東日本における中間評価報告(外部評価チームより)

第二部 1.CFCの2020年ビジョン発表(代表理事より)
2020年の日本の子どもたちの状況とCFCのあるべき姿について(CFCアドバイザー川北秀人様より)

2.ディスカッション

- テーマ① 学校外教育パウチャー事業の地域展開について
- テーマ② 学習意欲の低い子どもの支援方法について
- テーマ③ 東日本大震災被災地の継続支援について

CFCアドバイザー・スーパーバイザー 川北秀人様、田村太郎様、出村和子様、長尾文雄様、能島裕介様

協力企業・団体

伊藤政倫様(社団法人全国学習塾協会 会長)
青柳光昌様(公益財団法人日本財団 東日本大震災復興支援チーム チームリーダー)
樋口裕司様(公益財団法人日本財団 東日本大震災復興支援チーム)
小田礼子様(公益財団法人東日本大震災復興支援財団)
藤原公博様(株式会社ワイズ 教育企画部教務企画室)
赤林英夫様(慶應義塾大学経済学部 教授 教育の経済学専攻)
田中隆一様(政策研究大学院大学 准教授)
中室牧子様(慶應義塾大学総合政策学部准教授)
荒木宏子様(慶應義塾大学経済学部 助教)

ご参加

いただいた
皆様

外部評価チーム

ファシリテーター

田中滋様

外部評価

外部の専門家から客観的な事業評価を受けることで
社会への説明責任を果たすとともに、事業の改善に努めます

調査の概要

●目的

日本で初めての試みである学校外教育パウチャー事業の効果測定を行い、その成果について第三者から客観的な評価を受けることにより、支援者に対する説明責任を果たすとともに事業の改善を図る。

●調査対象者

2011年度のCFCパウチャー応募者の中学生・高校生
計808人(中学生229人、高校生579人)

●外部評価チーム

赤林 英夫様(慶應義塾大学経済学部教授 教育の経済学専攻)
田中 隆一様(政策研究大学院大学准教授)
中室 牧子様(慶應義塾大学総合政策学部准教授)
荒木 宏子様(慶應義塾大学経済学部助教)

●協力

株式会社ワイズ様
藤井書房様

●調査の内容

【第1回調査】

- ①保護者アンケート:主たる生計者、世帯の収入、保護者の年齢、学歴、職業、子どもの将来に対する考え方、子どもの学校外教育へのアクセス等
- ②子どもアンケート:家庭での学習時間、普段の読書量、将来の進学希望、自尊心等
- ③子ども学力テスト(国語・数学):中学生:学年ごとの模試の過去問(藤井書房様ご提供)
高校生:高卒認定試験向けテスト(株式会社ワイズ様ご提供)
※回収率:75.1%(607/808人)

【第2回調査】

- ①高校3年生アンケート:進路(就職する場合は、就職先)、学校外教育へのアクセス、自尊心等
- ②中学3年生アンケート:進路、就職先、学校外教育へのアクセス、自尊心、QOL等
- ③中3・高3以外の子どもアンケート:学校外教育へのアクセス、自尊心、QOL等
- ④高3以外の子ども学力テスト(国語・数学):第1回と同様
※回収率:46.7%(352/754人)

【第3回調査】

- ①子どもアンケート:学校外教育へのアクセス、自尊心、QOL
- ②子ども学力テスト(国語・数学):第1・2回と同様
※回収率:52.5%(396/754人)

外部評価チームからの講評

CFCは、日本で初めてとなる学校外教育パウチャー(クーポン)の提供に際し、私たち外部評価チームに対し、統計手法を用いた客観的な評価を依頼してきた。そのような評価を民間団体が自ら求めるることは我が国では画期的なことであり、CFCの支援者や社会に対する説明責任の姿勢に敬意を表したい。

今回の評価の結論を述べると、(1)パウチャーの配布が学力を向上させるという、一貫した強い証拠は見られなかった。(2)パウチャーの配布は子どもが感じる自尊心や生活の質に負の影響を与えた可能性がある。(3)プラザー・シスター制度には一定の意義がある、という3点である。

(1)の点はCFCにとって不本意かも知れないが、本来、パウチャー政策の学力への効果を計測するためには、ランダム化等により政策効果計測のための比較対照群が十分にとれること、パウチャー応募者全員から調査への協力が得られること、そして応募者全員の学校外教育の利用状況を正確に把握することが不可欠である。しかし、今回の調査がパウチャー募集開始後に設計されたという経緯を考えると、必ずしも理想的な状態で効果計測が行われた訳ではなく、今回の結論が学校外教育パウチャーの効果を完全に否定するものと解釈るべきではない。また、今後、同様の調査を行うにあたっては今回の教訓を十分に踏まえ、効果計測まで含めた事業設計をあらかじめ検討しておくべきであるといえる。

(2)の点については、あたかもパウチャーの配布は子どもの精神状態に対してマイナスの効果があるように見えるかも知れないが、塾に行っていなかった子どもがパウチャー配布により保護者に勧められて不本意に塾に通うことになった場合や、塾に通い出したことによって学力的な不足を実感したような場合を想像すれば、この結果は驚くべきことではない。(3)の点は、そのような状況の子どもにとってプラザー・シスターが精神的な支えになりうる可能性を示しており、プラザー・シスター制度を設置したCFCの意図が間違ってはいないことを示していると考えられる。

今回の外部評価から導かれる助言は、第一に子どもの精神的な支えとしてのプラザー・シスター制度を重視し、その質を向上させること、第二に学力についての今回の結果を重く受け止めつつ、今後より正確な評価を行うために、パウチャー募集時に応募者全員に調査への協力を求めること、可能な範囲でランダム化による比較対照群を十分に確保すること、そして、学校外教育利用状況を正確に記録し、子どもの学力の変化も可能な限りフォローアップしていくことである。

末筆ながら、今回の調査にあたって協力をいただいた利用者やその他の子ども達、また保護者の皆さまに深く感謝したい。

外部評価チーム 代表
赤林 英夫様
慶應義塾大学経済学部教授
教育の経済学専攻

今後の展開

「子どもの貧困問題」を解決するために 既存事業の制度をブラッシュアップし 学校外教育バウチャー事業を全国に広げていきます

日本国内では約320万人の子どもが貧困状態にあると言われています。

CFCは、全国の子どもたちに等しく学校外教育の機会が与えられ、

子どもの貧困問題が解決される状態を目指します。

そのために、現在実施している事業を見直すことで、より効果の高い制度を再構築し、

将来的にはこの仕組みを全国に広げていきたいと考えています。

2013年度の展開 1

外部評価の分析結果をもとに既存の制度を見直し学校外教育バウチャー事業の効果を高めます

外部評価の知見に基づいて、「バウチャー利用者の審査基準」「バウチャー取扱事業者の選定方法」「ブラザー・シスター制度」等、既存事業の制度を見直します。そして、より効果の高い学校外教育バウチャー事業の制度を設計します。

2013年度の展開 2

東北・関西地域に加え、
東京で学校外教育バウチャー事業を実施します

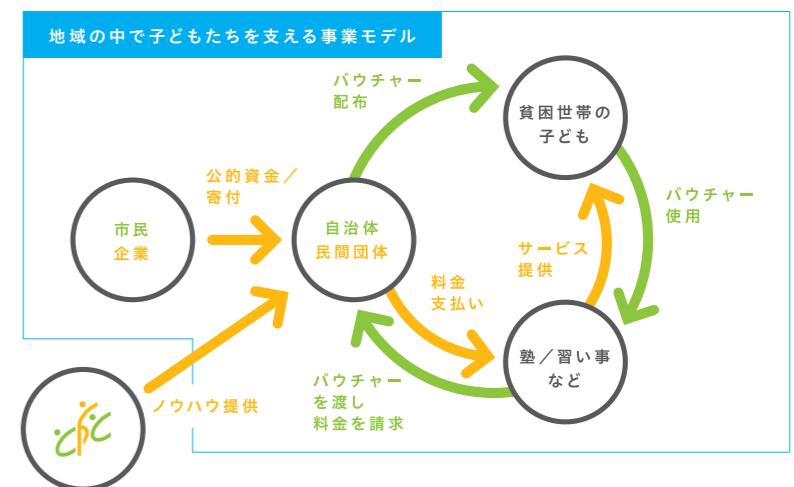
2013年度は、東北・関西に加えて東京都内の貧困世帯の子どもたちに学校外教育バウチャーを提供します。東京での事業は、東京都内で子どもや若者の社会教育活動を行う「NPO法人夢職人」様と連携して実施します。(2013年度中に東京都江東区内に東京事務局を開設)



中期ビジョン(2014年度以降)

全国の自治体や民間団体にノウハウを提供し学校外教育バウチャーの水平展開を目指します

CFCはこれまでの実績やノウハウを全国の自治体や民間団体に提供し、学校外教育バウチャーの仕組みを展開することで子どもの貧困問題の解決を目指していきます。



学校外教育バウチャーコンサルティング

- 各地域の特徴、ニーズに合わせた制度設計、事業運営をサポート
- 事業実施に必要なすべてのものをワンパッケージ化して提供

CFC 提供メニュー例

- ① 制度設計(対象者/審査基準/給付額/利用範囲)
- ② 利用先選定(募集・選定/運営方法の指導)
- ③ 効果測定(アンケート/学力テスト)
- ④ 資金調達(個人寄付・会員/法人寄付・会員)
- ⑤ ボランティア育成(ボランティアの募集/研修プログラム立案/フォローアップ)
- ⑥ ツール(バウチャー/ホームページ/運営マニュアル)

財務・会計

損益計算書の要旨

(2012年4月1日から2013年3月31日まで)

	(円)
収入の部	1 会費・入会金収入 65,000
	2 寄付金収入 37,527,101
	バウチャー指定寄付 37,314,329
	運営費指定寄付 212,772
	3 補助金等収入 37,572,619
	4 委託料収入 17,272,996
	5 雑収入 168,426
	収入合計 92,606,142
	1 事業費 60,856,547
	バウチャー発行高 48,500,000
支出の部	その他事業費 12,356,547
	2 管理費 26,371,563
	人件費 10,316,809
	その他経費(地代家賃・事務費等) 16,054,754
	支出合計 87,228,110
	当期正味財産増減額 5,378,032
	前期繰越正味財産額 7,087,947
期末正味財産合計 12,465,979	

スーパーバイザー意見

2012年度においてはこれまで継続して実施してきた西日本及び東日本大震災被災地でのバウチャー提供に加え、大阪市の委託により大阪市西成区で塾代助成事業として学校外教育バウチャーの提供を行うこととなった。この大阪市での取り組みは行政による学校外教育バウチャーの提供としては全国でも初めての試みであり、その業務量、規模もかつてCFCが経験したことのないものであったが、企業との適切な連携により、その業務を円滑に遂行できたことは評価に値する。

一方、東日本大震災被災地での学校外教育バウチャー提供事業について、外部評価の結果が出された。その内容は当初にCFCが予想していたものとは異なっていたが、その結果を真摯に受け止め、さらに成果を上げていくための制度の見直しが必要だと思われる。とりわけ利用者の選定方法の見直しやプラザー・シスター制度の拡充は強く求められる。

財政面においては前年度と比較して寄付金収入が1,400万円程度増加したことは今後の安定的な事業運営に貢献するものであると思われる。その一方で補助金収入が減少した訳であるが、中長期的には補助金の減少は不可避であり、寄付や会費などの自己財源の拡充に注力することは事業の持続にとって重要であると考える。

貸借対照表の要旨

(2012年4月1日から2013年3月31日まで)

	(円)
資産の部	1 流動資産 81,303,627
	現預金 66,141,027
	未収入金等 15,162,600
	2 固定資産 725,849
	資産の部合計 82,029,476
	1 流動負債 69,563,497
	バウチャー引当金 48,500,000
	未払金(提供バウチャー未使用分) 11,032,045
	その他流動負債 10,031,452
	負債の部合計 69,563,497
の正味財産	正味財産 12,465,979
	(うち当期正味財産増減額) 5,378,032

貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)及び財産目録は、法令及び定款にしたがい、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事 津久井進



日本の未来を担う子どもたちを 皆さまと「一緒に」支えていきたい

CFC代表理事の3人は学生時代、CFCの設立母体であるNPO法人ブレーンヒューマニティーで子どもたちの選択肢を広げるための様々な活動をしてきました。その中で3人が学んだことは、すべての子どもたちは大きな可能性を秘めているということ。子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出すために、これからも皆さまと「一緒に」支えていきたいと思います。



代表理事 今井 悠介

1986年生まれ 兵庫県出身
小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレーンヒューマニティーで不登校生徒支援に関わる。KUMONで教室コンサルタントとして勤務した後、「11年7月に退職し、当法人代表理事に就任。



代表理事 奥野 慧

1985年生まれ 新潟県出身
19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、NPO法人ブレーンヒューマニティーで国際交流事業に関わる。「11年3月から東日本大震災緊急支援活動に参画。その後当法人設立・代表理事に就任。



代表理事 雜賀 雄太

1987年生まれ 香川県出身
関西学院大学在学中、NPO法人ブレーンヒューマニティーで子どもの貧困プロジェクト代表を務める。大学卒業後、「(財)大阪YMCA」に入職。「11年3月、当法人の設立のため退職し、代表理事に就任。

バウチャーを受け取って、夢や目標に近づくことができた子どもたち、新しい仲間ができる子どもたちから、たくさんの喜びの声が届いています。でも、実はそれだけではありません。『顔も知らない大人たちが自分たちのことを支えてくれているということ』これが子どもたちにとっては、大きな心の支えになっています。彼ら・彼女らが成長し、社会を担うその日まで、是非とも一緒に支えていきましょう。これからもよろしくお願いします。

2012年度利用者から大学進学の報告をもらいました。彼が言ってくれた「この制度のおかげです」という言葉は、喜びを与えてくれると同時に「この活動を制度化しなければならない」という使命感を感じさせてくれます。今年度は、大阪市での政策導入という大きな一歩があり、問題解決に向けた協働の大切さを改めて感じました。来年度は更にスピード感をもって課題解決に向けたアクションを行い、その進捗を報告できるようにしていきます。

今までの活動を通じ、はっきりと分かったことがあります。それは、目の前にチャンスさえあれば、そのチャンスを最大限に活かし自らの可能性を広げていく力を子どもたちは備えているということです。子どもたちのために私たちができること。それはご支援・ご協力いただいている皆さんと共に、一人でも多くの子どもに「チャンス=学びの機会」を作り出すこと以外ありません。今後ともあたたかいご支援をお願いします。

報告書の制作にご協力いただいた方々



写真撮影
フォトジャーナリスト
安田 菜津紀さん



デザイン/制作ディレクション
サイカンパニーさん



ライティング
PEAKS
上野 裕子さん

書籍の企画・編集を手がけるほか、住まいや健康、食などの暮らしにまつわる分野を中心とした雑誌やWEBで執筆活動を行う。

子どもたちの夢を支える方法



支援方法

CFCサポート会員への入会(継続的に応援する)

月500円からの寄付で日本の子どもたちを支えることができます。

【CFCサポート会員の種類】

CFC東日本サポート会員(個人・団体)

東日本大震災で被災した子どもたちの支援

CFC西日本サポート会員(個人・団体)

西日本の貧困層の子どもたちの支援

【入会方法】

1. 自動振替による決済

「入会申込書、預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」を送付させていただきます。資料をご請求ください。

E-mail : info@cfc.or.jp TEL : 022(265)3461

2. クレジットによる決済

専用ページからお手続きください。

<https://mp.canpan.info/cfc>

※決済時には会員登録が必要となります

自由な金額を寄付

CFC東日本 銀行振込

金融機関：三井住友銀行 仙台支店

口座番号：普通 1756243

口座名義：一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

CFC東日本 郵便振替

口座番号：02280-1-110338

口座名義：チャンス・フォー・チルドレン東日本

CFC西日本 銀行振込

金融機関：三井住友銀行 西宮北口支店

口座番号：普通 4686606

口座名義：一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン

CFC西日本 郵便振替

口座番号：02200-6-134098

口座名義：チャンス・フォー・チルドレン関西

その他の支援方法

古本寄贈による寄付



チャレンジによる寄付
JustGiving Japan
あなたのチャレンジが世界を変える。

Tポイントを寄付
T-POINT

支援方法について詳しくはwebで www.cfc.or.jp/support

CFC 検索